

7項 生協の事業（3） 店舗

お店ハーツの取り組みとハーツ便（移動店舗） －組合員の幸せと地域社会のために



高井 健史

福井県民生活協同組合

福井県民生協の概要

創立 1977 年、組合員数 162,665 人、出資金 96 億 9,564 万円、事業高 263 億 7,741 万円（うち店舗事業 107 億 7,776 万円）、店舗数 11 店舗（コンビニ型 1 店舗含む）、移動店舗 13 台、理念「組合員の幸せと地域社会のために」（実績は 2021 年 3 月末現在）

店舗事業の展開

福井県民生協は、従来宅配事業を中心に事業を展開してきましたが、宅配だけではまかないきれない生鮮食品を幅広く取り扱い、組合員の毎日の食生活の充実に応えるため、1996 年に第 1 号店となる「ハーツ羽水」をオープン、以降現在までに県内にコンビニ型の店舗 1 店舗を含む 11 店舗の展開を行っています。Health（健康）、Ecology&Earts（環境と地球）、Amenity（快適）、Relief（安心）、Trust（信頼）、Symbiosis（共生）の頭文字をとって Hearts（ハーツ）という名称を採用しました。コープ商品や地産商品や産直商品を豊富に品揃え、組合員の食卓に美味しさを、笑顔を提供していくことを目指しています。

食の安全・安心

当生協の商品取り扱いの基本的な考え方は、「安全・安心で品質の良い商品をお届けすること」です。そのために 5 つの安全確認業務（①リスク予兆管理、②仕様書点検、③工場点検、④商品検査、⑤お申し出管理）を行い、安全安心な商品のお届けにつなげています。商品検査では商品の特性に応じて「微生物検査」「理化学検査（残留農薬・抗生物質・産地判別検査・放射線検査）」を行い、商品の安全確認を行っています。また、生協の食品添加物基準を定め、「不必要な添加物や有害な添加物を使用しない」を基本に、使用する場合でも「安全性」「必要性」「有用性」を十分に考慮し、必要最小限の仕様に留めています。

店舗各部門の特徴

ハーツでは、生鮮食品とコープ商品の品揃えを充実させています。農産部門では、生産者や肥育方法が明確な産直農産物や農薬を抑えた「有機JAS」「特別栽培農産物」「エコファーマー」、収穫後の薬剤を使用しない輸入農産物を品揃えしています。水産部門では、県内にある越前・三国・敦賀・小浜の漁港で水揚げされた鮮度のよい魚で刺身や寿司、水産惣菜を提供しています。畜産部門では、「九州黒牛」「さくら豚」「秋川鶏」「旨味鶏」など産地や生産者、肥育方法が明確な産直牛を中心に展開しています。ハムやウインナーなどの畜肉加工品は、コープ商品を充実させています。惣菜では、産直肉や地元野菜を使用した惣菜を提供しています。食品・日用品では、コープ商品の品揃えを中心に、県内メーカー製造の豆腐や練製品などのPBを取り揃えています。最近では、日用品の品揃えも充実し、ハーツにあれば必要なものは全て揃うワンストップショッピングの実現も目指しています。

食材セットの展開

福井県は共働き世帯が全国1位で惣菜の利用高も全国1位となっており、店舗では、揚げ物や和洋総菜なども充実させています。あわせて積極的に展開しているのが、フライパンひとつで本格的な主菜や副菜ができる「パパッとCOOK」や「ミールキット」です。ハーツキッチンというコーナーをつくって展開することで「忙しくてもちゃんと」を応援しています。2018年にはJA福井県経済連と連携し、県内の農産物を活かした惣菜や食材セットを製造する食品加工センターをオープンし、食材セットの展開を充実させました。この年には福井国体の弁当対応もこの施設で行いました。また、チャレンジ展開として、水産部門や畜産部門の商品と食材セットを組み合わせた店舗オリジナル食材セットの展開もはじめて、組合員のニーズに応える品揃えにつなげています。

健康志向への対応

近年特に意識が高まっているのが健康志向。当生協でも2021年よりくらしのサポートセンターを立ちあげ、組合員の食とくらしのお困りごとの支援やヘルスケア事業の展開に取り組み、「健康寿命」の延伸に寄与することを目指しています。店舗では毎週金曜日を健康を考える日として、健康配慮の独自ブランド「健康生活 Healthy Hearts」の展開やカロリーカットや大豆たんぱくやビーガン対応なども進めています。2021年3月にリニューアルした「ハーツ志比口」では、アレルギー対応や減塩、サプリのコーナーも充実させ、健康に寄り添ったお店としての展開を強化しました。

ハーツアプリの展開

2020年には、ハーツアプリを開発し、組合員証やクーポン券、日々のハーツファミリー（チラシ）の掲載、ポイントの管理、商品予約などができるようになりました。組合員証の提示がアプリで完結できるようになり、組合員の利便性向上にもつながりました。登録3ヶ月で3万人組合員が登録しました。

ハーツ便（移動店舗）の展開

福井県でも高齢化が進み、中山間地などで日常の買い物に支障をきたす「買い物弱者」の発生が社会問題になってきました。また、ハーツの無いエリアの組合員から店舗の生鮮食品の利用の要望が多くあがるようになってきました。そこで、2009年に福井・鯖江・敦賀の3エリアで「ハーツ便（移動店舗）」を導入しました。一か所の停留所に7人以上登録して頂くことを条件に、限界集落と言われる地域への供給をスタートしました。福井県や大野市といった自治体とのモデル事業の展開などもあり、また地域の組合員や公民館などの協力もあり、現在では、13台のハーツ便が週約800ヵ所を回っています。今までは、ハーツが遠くてなかなか行けなかったけど、近くまで来てもらえて嬉しい。店内が清潔なものいいわ！という声も頂いています。また、中山間地だけでなく街中でも買い物弱者が増えていることから、市街地でもハーツ便の要望は増えています。買物支援として「移動店舗ハーツ便」や店舗まで無料送迎を行う「お買い物バス」、買い物代行ハーツのおつかいさんなど、様々な形で組合員の買物をサポートすることで、いつまでも生協を利用して頂きたいという願いを持っています。

組合員の幸せと地域社会のために

当生協では、事業ネットワークという考えを持って、組合員の生涯の暮らしに座標軸を置いて事業の連携を図ることで、組合員満足（CS）の価値の最大化を求めてきました。事業をどう組合員に利用してもらうかではなく、組合員の暮らしにお役立ちができる事業の形、スタイルを具現化することで、組合員の食とくらしを支えたいと願い、現在の形をつくってきました。店舗の健康志向への対応やミールキット、ハーツ便の取り組みも、こういった組合員のライフスタイルの変化にあわせた要望に応える形で実現してきました。これからも、組合員の声に真摯に耳を傾け、組合員の願いを一つひとつ実現していくことで、組合員とともに持続可能な地域社会づくりを行っていけるものと考えています。



ハーツ志比口 店内風景



移動店舗「ハーツ」便 (1t車)



ハーツ志比口 外観



ヘルスケア関連コーナー「Healthy Hearts」